

平成21年度生活創造大学生生活環境科提言

私たち生活環境科は、「地球に優しい暮らしを始めよう！！」をテーマに、講座に取り組みました。

今、地球温暖化問題、ゴミ問題、大気や水の汚染等の環境問題が数多く起こっており、私達一人一人が環境のことを考えて生活することが大切です。

私達の暮らしが地球温暖化に深く関わりがあり、毎日の生活の中から少しの工夫で地球に優しい行動につながります。

この1年を通じて学び得たことをまとめ、地球を守り、地域を守るため、次の3点を提言します。

①環境に対する学習、意見交換の場やシリーズ講座の開催など、継続した取組を。

第3回講座で、西脇高等学校生活情報科の皆さんのエコへの取組と地域での活動をお聞きし、グループでの意見交換を行いました。次代を担う若い人達が地域と関わり活動されている姿に、深く感銘を受けました。第5回講座では、キリンビール岡山工場のエコツアーに参加し、企業ならではの環境への配慮を学びました。

このような学習の中で、世代・業種に関わらず、環境保全は共通の問題であると改めて感じました。

そこで、家庭生活に密接に関わる住民や団体、組織などが、ともに問題点等を考え、環境についての情報交換や学習ができる機会を設けたり、知識の向上につながるシリーズ的な講座の開催など、継続した取組を望みます。

②公共施設での壁面緑化や節電、省エネなどの取組み

生活環境科では、運営委員、講座生が協働し、多可町役場や各家庭でゴーヤを植え付け、壁面緑化に取り組みました。第4回講座では、自分たちで育てた野菜を使ってのエコクッキングを行いました。第6回講座では待機電力の実態や、使用電力に対するCO₂排出量などについて学びました。

私達は、普段の生活の中で、無意識のうちにエネルギーを消費し、多くのムダが発生しています。もっと身近に、もっと切実に、自らの問題として認識し、公共施設・家庭が同じ目線で環境問題をとらえ、取り組んでいく意識の改革が必要です。

そこで、学校や役場などの公共施設が、問題意識をもち、壁面緑化の取組や、不要な照明の消灯や適切な空調設定などの節電、節水に努め、地球温暖化防止の意識を高めることが大切ではないでしょうか。その実績を配信し、各集落・家庭へと伝えていくことで、環境に対して高い意識をもった町になっていくのではないかと考えます。

③多可町の宝を守り、次代へ受け継ぐ学習機会の充実を図る

第1回講座で、俵田地区のホタルの生育と地域での取組を学び、周辺環境の保全が重要であると学びました。

また、第2回講座では、大袋地区の梅花藻を見学しました。集落では、清掃活動を実施し、周囲の環境を守られています。しかしながら、環境の変化により、年々生育状態が悪化しているとの説明を受けました。

こうした学習の中で、このような素晴らしい自然は、地元の方々の存続への大変な努力のうえになりたっており、特色ある自然環境を守るためには、多方面からの配慮が大切であると感じました。

多可町には、「清らかな水に梅花藻がいっぱい、豊かな自然にホタルが飛び交う」といった、守るべき各地区の持つ素晴らしい自然環境がたくさんあります。

その環境を守り残していくため、自然環境の保全に対する啓発や学習の場の充実、さらには技術的・専門的なノウハウを学ぶ機会を提供するなどの支援が必要であると考えます。

そうした取組を通して、自然環境への意識を高め、多可町全体に魅力的なスポットが広がり、〔自然〕という宝が次代へ受け継がれていくことを望みます。